



成田赤十字病院

成田赤十字病院 広報誌

vol. 70

ふれあい

成田日赤に関わる方々との“ふれあい”を大切に。



日本赤十字社公式キャラクター
ハートクロスちゃん

医療最前線

予防接種で守る
わたしと家族の健康… 2

医療現場のプロフェッショナル
初期臨床研修医… 5

あなたのかかりつけ医… 6



予防接種で守る わたしと家族の健康

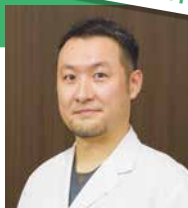
— 知っておきたいワクチンの大切な役割 —

私がナビゲーターを務めます

きがわ たか
木川 崇 先生

子どもの代弁者として、適切な医療を丁寧に。

担当科：小児科



予防接種というと、「子どものもの」「昔受けたから大丈夫」と思われがちですが、実は子どもから大人、高齢の方まで、すべての世代に関係するテーマです。

近年、ニュースなどで「麻しん」「百日咳」「带状疱疹ワクチン」などの話題を耳にする機会が増えています。医療が進歩した現代でも、感染症は決して過去の病気ではありません。例えば麻しんは、非常に感染力の強い病気で、1人の患者さんから10人以上に感染することとも言われています。かつては毎年何千人もの命を奪ってきた感染症ですが、ワクチンの普及によって大きく減少しました。しかし、海外からの持ち込みやワクチン接種率の低下などをきっかけに、数年おきに流行が起こっています。

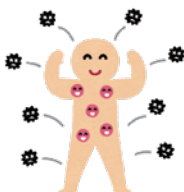
私たちが安心して生活するためには、感染症を防ぐ仕組みが必要です。その重要な役割を担っているのが**予防接種(ワクチン)**です。



予防接種とは「体に覚えさせる予習」

予防接種とは、本物の病気にかかる前に、体にその病原体を覚えさせておく練習用の教材です。弱めた病原体やその一部を使い、体に「この病原体が侵入したらどう防ぐか」を事前に学習させることで、いざ感染しても重症化を防ぐことができるのです。

人間の体は、一度ワクチンで学習すると、実際に感染した時に素早く強く防御反応が働く機能を持っています。これを「**免疫記憶**」といいます。一度覚



えた病原体に対する免疫は、数年、場合によっては数十年も記憶されます。

子どもの予防接種はなぜ早い時期から？

日本では、赤ちゃんのうちから多くの予防接種が行われます。1歳までに10種類以上の感染症を予防できるワクチン接種がスケジュールに組み込まれています。

生まれたばかりの赤ちゃんは、お母さんのお腹の中でもらっていた免疫によって守られています。しかしその免疫は数か月で切れてしまい、免疫が十分でない時期に感染症にかかると、大人よりも重症化しやすいことが知られています。そのため、赤ちゃんが自分自身の免疫を作れるように、計画的に予防接種を行うことが重要なのです。



みんなで守る「集団免疫」という考え方

感染症の流行を防ぐためには、社会全体で一定以上の人が免疫を持つ必要があります。これを「**集団免疫**」と呼びます。

ワクチンは、全員が必ず打てるものではありません。例えば、免疫不全といった病気や体質の関係で接種できない方もいます。だからこそ、多くの人が予防接種を受けることで、社会全体で免疫の壁



を作り、感染症の広がりを防ぐことが大切です。

つまりワクチンは、「打つ人のため」だけではなく、「打てない人を守る」役割もあるのです。

ワンポイント



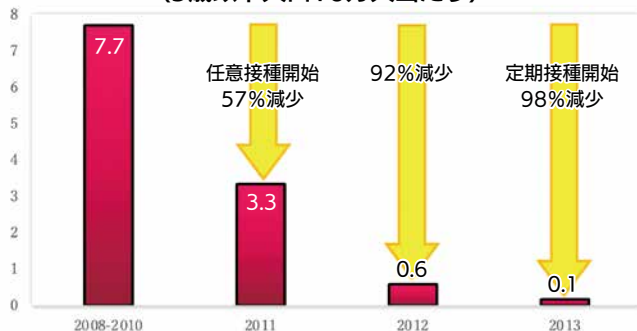
麻しんの流行を防ぐには、95%以上の接種率が必要といわれています。

ワクチンが救ってきた多くの命

予防接種の普及によって、多くの感染症による入院や死亡は激減しました。医療現場でも、ワクチンの効果を日々実感しています。

例えば、細菌性髄膜炎は子どもの命を脅かしてきた疾患の一つですが、ヒブワクチンや肺炎球菌ワクチンの任意接種・定期接種が導入されてから、その発生数は大幅に減少しました。

ワクチン接種と細菌性髄膜炎発生率の推移
(5歳以下人口10万人当たり)



参考：厚生労働科学研究費補助金(新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業)
「Hib、肺炎球菌、ロタウイルス、HPV等ワクチンの有効性、安全性並びにワクチン副反応に関する基礎的・臨床的研究」
平成25年度研究報告書「小児細菌性髄膜炎および信州性感染症調査」に関する研究(全国調査結果) より

大人や高齢者にも必要な予防接種

予防接種は子どものためだけのものではありません。年齢を重ねると免疫力は徐々に低下するため、再接種や追加接種が必要になります。高齢の方にとっては、以下のようなワクチンが特に重要です。

・肺炎球菌ワクチン

日本では肺炎は死亡原因の上位。ワクチンによって重症肺炎を3~4割減らすことがわかっています。

・带状疱疹ワクチン

子どものころの水ぼうそうのウイルスが再活性化して起こる病気で、強い痛みが長く続くことがあります。現在は高い予防効果を持つワクチンも利用できるようになっています。

・インフルエンザワクチン・新型コロナウイルスワクチン

インフルエンザや新型コロナウイルスは毎年ウイルスの型が変わるため、毎年の接種が必要です。

まとめ

- ・ 予防接種は自分と社会を守る壁であり、「未来への投資」。
- ・ 子どもも大人も接種する意味がある。
- ・ 不安な時は医療者へ相談を。

妊娠中や授乳中でも安全に受けられるワクチンがあります。

例えばインフルエンザやコロナウイルスは、お母さんと赤ちゃんの両方を守ります。また、風しんは妊婦への感染で胎児にとっても大きな影響をおよぼす感染症です。妊娠を希望する女性だけでなく、そのパートナー男性にも風疹ワクチンの追加接種をお勧めしています。



副反応との向き合い方

予防接種に対して、「副反応が心配」という声を時々耳にします。

ワクチン接種後に、発熱や接種部位の腫れ、痛みなどが起こることがあります。これらは体がしっかり反応している証拠で、体が免疫反応を起こしているために生じる一時的な症状です。

一方で、重い副反応は非常にまれとされています。日本では厳格な監視体制があり、ワクチン接種後の副反応は報告制度によって継続的に評価されており、もし安全性に問題が見つければ、接種方法や対象が見直される仕組みになっています。

情報は信頼できるところから

インターネットやSNSには、予防接種に関するさまざまな情報があふれています。しかし、その中には個人の体験談や科学的根拠が不十分な情報も少なくありません。



予防接種について調べる際には、**厚生労働省**や**日本内科学会**、**日本小児科学会**など信頼できる機関から得るようにしましょう。また、迷ったときには主治医に相談することが安心で確実な方法です。

予防接種は「未来への投資」

予防接種は、「自分」と「家族」と「地域」を守る行動です。感染症から身を守るためには、「治療」だけでなく「予防」が欠かせません。

医療者としての願いは、「ワクチンで防げたはずの病気」で苦しむ人を減らすことです。

予防接種は科学的に有効で、安全性も確立しています。ぜひ正しい情報に基づいて、一歩を踏み出してください。





令和8年度 成田赤十字病院 公開健康講座のご案内

公開健康講座は当院の医師や看護師などが講師となり、地域の皆さまを対象に開催しています。ぜひお気軽にご参加ください。



詳細・申込みはコチラ



開催日時	テーマ	講師	会場
令和8年5月23日(土) 14:00～15:30	睡眠 ～よく眠れるためのコツについて～	第一精神神経科部長 齋賀 孝久	成田赤十字病院
令和8年6月26日(金) 14:00～15:30	腰痛について ～安静と運動、どちらがいいの?～	第一リハビリテーション課長 石神 草	成田赤十字病院
令和8年7月18日(土) 14:00～15:30	こどもの症状と 救急受診のタイミング ～迷ったときに知っておきたい考え方～	第四小児科部長 櫻井 彩子	成田赤十字病院
令和8年8月29日(土) 14:00～15:30	带状疱疹について	皮膚科副部長 栗田 遼二	成田赤十字病院
令和8年9月19日(土) 14:00～15:30	成人の気管支喘息について ～放っておけない長引く咳～	呼吸器内科副部長 竹下 友一郎	成田赤十字病院
令和8年11月14日(土) 14:00～15:30	糖尿病について知ろう(仮)	第二糖尿病・内分泌代謝内科部長 永野 秀和	成田赤十字病院
令和8年12月22日(火) 14:00～15:30	脳卒中の予防と早期発見	慢性疾患看護専門看護師 小笠原 倅	成田赤十字病院
令和9年2月20日(土) 14:00～15:30	頻尿(夜間頻尿)	泌尿器科 演者未定	成田赤十字病院

※本誌発行時点での開催予定であり、演題内容や会場等が変更になる場合があります。最新情報やお申込み方法等については、当院ホームページをご覧ください。



祝・100周年! 日本赤十字社の講習事業

日本赤十字社が普及に努めている、救急法や水上安全法などの各種講習。その歴史は、大正15年(1926年)にスタートした「衛生講習会」にまでさかのぼります。そして令和8年(2026年)12月、本講習事業は記念すべき「100周年」という大きな節目を迎えることとなりました。これを機に、講習事業のさらなる発展を目指し、特別な記念企画をスタートいたします。

100周年記念・特別企画のご案内

- 全国47都道府県キャラバン
全国を巡り、講習の魅力や大切さをお伝えするキャラバンイベントを開催します。
- 思い出のモザイクアート制作
これまでの講習の長い歴史や、皆さまの大切な思い出が詰まった数々の写真をつなぎ合わせ、ひとつの大きなモザイクアートを制作します。

【当院でのモザイクアート展示】

制作されたモザイクアートは、当院でも夏頃に展示する予定です。100年の歩みが詰まった素敵な作



品を、ぜひ楽しみにお待ちください!

皆さまへの感謝とこれからの決意

今日まで講習事業を支え続けてくださったボランティアの皆さま、そして受講していただいた数多くの皆さまに、心より感謝申し上げます。皆さまへの感謝の思いを胸に、日本赤十字社はこれからも「人のいのちと健康を守る」活動を力強く続けてまいります。

千葉県では、キャラバンイベントを7月25日にイオンモール成田で開催するほか、県内で開催する赤十字講習の受講者にメッセージカードを配布・記入してもらい、赤十字施設等に受講者からのメッセージを展示する独自の記念企画を実施します。

また、講習受講者全員に講習100周年記念の受講証をプレゼントします。

初期臨床研修医

“誰かの力になりたい”から始まった医師の道

▶ 普段どんなお仕事をしていますか？

初期臨床研修医として、各診療科を月単位で回りながら研鑽を積んでいます。診察や処置、救急対応など、現場のスピード感に圧倒されることもあります。上級医や先輩、同期に助けられながら日々病棟を駆け回っています。多職種の方々と連携しながら、「患者さんにとって最善の医療とは何か」を常に問い続け、退院後も笑顔で生活していただけるよう心掛けています。

▶ 目指したきっかけを教えてください

祖母が難病で在宅医療を受けており、小学生だった当時、「自分も助けになりたい」と考え始めたのがきっかけです。母は祖母の介護に加え、私たち兄弟4人の世話も担っており、日々大きな負担を抱えていました。そのような中で、訪問診療の先生が祖母だけでなく母のことも気に掛け、温かく接してくださった姿がとても印象に残っています。母も「気持ちが変わった」と話しており、医療は身体的なケアにとどまらず、人の心をも支えられるものだ実感しました。

▶ 仕事のやりがいを教えてください

チームの力になれたとき、そして患者さんに「先生に担当してもらえてよかったよ」と言ってもらえたときです。まだまだ未熟なことも多いですが、実際に患者さんが元気になっていく姿を目の当たりにするたびに「頑張ってたかったな」と感じます。また、ある診療科での研修の最後にご挨拶に伺った際、「きっと良い医者になるよ」「これからがんばるんだぞ」と背中を押してくださった患者さんの温かい言葉は、これからの医師人生を支える大切な財産となっています。

▶ 私生活との両立はどうしていますか？

オンとオフの切り替えを大切にしています。休日は旅行、スポーツ観戦、ギターに没頭しており、特に旅行はリフレッシュする自分にとって不可欠なひと時です。また、先輩にごはんに連れて行っていただくこともあり、仕事が早く終わった日に同期と温泉に行き、長風呂するのもハマっています。

▶ 今後の目標

診療科についてはまだ模索中ですが、将来は国内外を問わず存在する医療インフラの偏りについて取り組みたいと考えています。幼少期を海外で過ごした経験から医療が受けたくても受けられない人々がたくさんいることを知り、言語や環境の壁によって医療に手が届かない人々の助けになりたいと思っています。実際の現場に出向いて本当のニーズをすくい上げ、社会的・経済的に弱い立場の人々を支援できるような成長を続けたいです。今まで支えてくれた家族や友人への感謝を忘れず、誰かの力となる医師を目指し、日々精進してまいります。病院内で見かけた際は、ぜひ気軽に声を掛けてくださると嬉しいです！今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



初期臨床研修医 いくなが 生長 ありさん

生長さんのある1日

8:10	朝のカンファレンス(当直帯からの引継ぎなど)
9:30	ICU、病棟回診
12:00	昼食
12:30	回診
13:00	救急外来での診療対応
16:30	夕方のカンファレンス
19:30~	同期とごはん、自己研鑽(振り返りや勉強)や趣味など



カルテ入力の様子



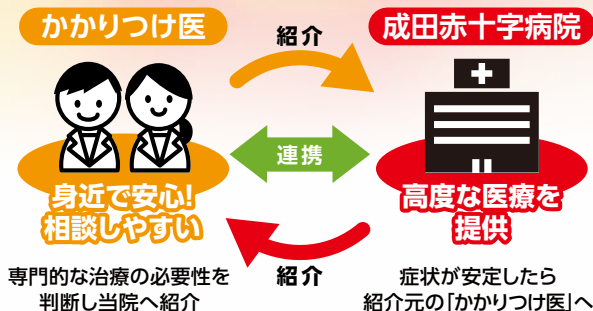
救急搬送対応の様子

お持ちですか?

地域医療連携 あなたのかかりつけ医

当院では、適切かつ高度な医療サービスを患者さんに提供するために「かかりつけ医」(地域の開業医)と連携しています。身近で安心な、相談しやすい「かかりつけ医」をもちましょう。

※当院では、内科、外科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科、泌尿器科、脳神経内科、歯科・口腔外科、整形外科の初診は、紹介状をお持ちの患者さんのみとなります。



うさびよんこどもクリニック

2018年5月に小児科クリニックとして佐倉市で開業しました。抗原検査や血液検査だけでなく、胸部レントゲンや超音波検査を積極的に活用し、できるだけ診断をつけることを目標に診療しています。診療以外では、院内は「うさびよん」を散りばめて、お子さんがまた行きたくくなるような雰囲気作りをしています。公式LINEスタンプの販売、かかりつけ医登録患者様にプレミアム感のあるゴールド診察券発行も行っています。「うさびよん行こう」と言っていたらいいようなクリニックを目指して努力していきますので、よろしくお願いいたします。



橋本 祐至 院長



診療メモ

〒285-0819 千葉県佐倉市寺崎北1-6-5

TEL 043-485-2433

診療科目 小児科一般、小児アレルギー、
外傷初期診療、健診、予防接種

診療時間 9:00~12:00、13:30~15:00、
15:00~18:00

※13:30~15:00はワクチン・乳幼児健診

休診日 木曜・土曜午後・日曜・祝日



八街こどもクリニック

2002年に国立病院機構下志津病院を退職後、小児科・アレルギー科・内科で開業し、2024年には心療内科も標榜しています。子どもと家族の健康を支える、かかりつけ医として地域医療に貢献することを目指し日々診療しております。現在では、かつて予防接種で来院していた子どもたちが親となり、自身のお子さまを連れて来院されるようになりました。アレルギー科では舌下免疫療法で多くの花粉症の方の治療を行っております。発達障害のお子さまやメンタル面に不安を抱える家族にも対応しております。公認心理師・臨床心理士資格も持つ院長および公認心理師・学校心理士資格を有する看護師が連携し、身体面と心理面の両面から、学校なども協力しながら総合的な診療を行っております。



向後 利昭 院長



診療メモ

〒289-1114 千葉県八街市東吉田517-57

TEL 043-440-6681

診療科目 小児科、アレルギー科、内科

診療時間 9:00~12:00、14:00~16:00、16:00~18:00
※火曜・水曜・金曜・土曜の14:00~16:00
は乳幼児健診・予防接種(要予約)

休診日 木曜・日曜・祝日

※土曜日は休診の場合があるため、詳しくは
クリニックへお問合せください。



成田赤十字病院基本理念

赤十字の基本理念に基づき、患者さんの権利と医療人としての倫理を守り、医療の質の向上と患者さん中心の「こころあたたかい医療」の実践に努めます。

成田赤十字病院 広報誌 ふれあい vol.70

〒286-8523 千葉県成田市飯田町90番地1

TEL.0476-22-2311(代) <https://www.narita.jrc.or.jp/>



成田赤十字病院基本方針

1. 地域の皆様から信頼される病院を目指します。
2. 救急医療の充実、安全でより高度な医療の提供に努めます。
3. 地域の医療・福祉との連携強化に努めます。
4. 国内外の医療救援活動に積極的に参加します。
5. 健全な経営と働きがいのある病院を目指します。
6. 赤十字病院グループの一員として赤十字活動の普及に努めます。